

---

# 君に幸あれ

村瀬千理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君に幸あれ

### 【Nコード】

N4420C

### 【作者名】

村瀬千理

### 【あらすじ】

君が僕から離れていく、僕はそれを笑顔で送り出そう。それが僕の立てた誓いなのだから

(前書き)

初投稿です！

「好きな人が出来たんだ」

夕暮れに染まるクラス、二人だけの空間。

「そう、それは良かった」

笑顔で語る君に、僕はおめでとうと言ってあげた。

心の涙を見せないように、にっこりと笑いながら

『君に幸あれ』

君はクラスで一番の人気者だった。

そんな君が僕は好きになれなかった。

太陽のような君の笑顔の裏に、何かが隠れている。

本当の自分を見せない君に、僕は少し苛立った。

可笑しいよね？

未だに心の闇を隠し通す僕が、他人にこんな感情を覚えるなんて初

めてだったよ。

だから君にぶちまけた。

今まで溜まっていた苛立ちを、全部君にぶつけてしまった。

君は凄く驚いた顔をして、泣き出した。

もう止まることがないってぐらい、ずっと泣き続けた。

そして、君は僕に全てを語った。

僕は君の心の闇を知った。

どうしていいかわからなかったけど、一つだけ決めたことがあるんだよ。

君に相応しい相手が現れるまで、僕が君を守り続けよう。

どんな闇からも、僕が盾となり君を守る。

それからというもの、君は僕にべったりだった。

でも、君の隣に僕が座るのは許されないことだった。

僕の闇は君のより遥かに巨大で、君を潰してしまっただろう。

だから僕は彼女の気持ちに気づかない振りをした。

君が僕に好きな人のことを語りつくし、クラスから去って行った。

彼女の足音が聞こえなくなり、僕はその場に崩れ落ちた。

心が軋んだような音を立て、視界が歪む。

感情を押さえていた結界が壊れ、涙が溢れ出した。

ずっと我慢していたから、全然止まってくれない。

君を守っているうちに、僕は君を好きになっていた。

心のどこかで、君はずっと隣に居てくれていると信じていたかった。

君が僕からいなくなるとわかった途端、心がそれを拒否してしまっ  
た。

『いかないでくれ、側に居てくれ』

そんな思いを、無理やりねじ込み彼女を送り出した。

神よ、

この気持ちを僕は永遠に封じます。

だから、

僕がまだ彼女が好きであることを許してください。

彼女が幸せになれるようにしてください。

(後書き)

いんやー、難しいですね^^；  
稚拙な小説ですが感想・意見等をお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4420c/>

---

君に幸あれ

2010年12月30日20時52分発行